

1 概要

対 象：小学部第三学年 訪問学級

教科等：自立活動

2 要約

極めて少数の子供たちのための教育制度である訪問教育は、実践事例の少なさから手探りで授業実践を行うなど課題がある。この課題に対する解決の糸口として、働きかけや外界からの刺激に対する対象児の身体部位の動きや緊張、表情の変化などの行動指標を図版化した身体地図の作成を通して、対象児のストロングポイントを授業実践に活かすこととした。実践の結果、対象児のストロングポイントを見付けるために、身体地図を作成することは、指導者が学習活動への意味付けができるようになったり、発達段階を踏まえてストロングポイントに働きかけることで、今後の変容に期待感をもって指導・支援できるようになったりすることが示唆された。

ストロングポイントを活かした
訪問教育の実践事例
-身体地図の作成を通して-

広島県立呉特別支援学校



1.問題の所在

訪問教育：極めて少数の子供たちのための教育制度

参考：訪問教育対象児2,828名/特別支援教育対象児総数487,013名 = 0.58%(2017年)

課題：実践事例の少なさ

⇒手探り・思いつき



- ヒントがない
- このままでよいか
- 無駄な時間では
- ただ不安

指導の糸口

働きかけや外界からの刺激に対する対象児の身体部位の動きや緊張、表情の変化などの行動指標を活用



見やすくまとめる：図版化

身体地図

2.目的

身体地図を作成して対象児のストロングポイントを見つけて授業実践に活用し、効果を検証する。参考：川住隆一(2003.2015).文部科学省(2018)



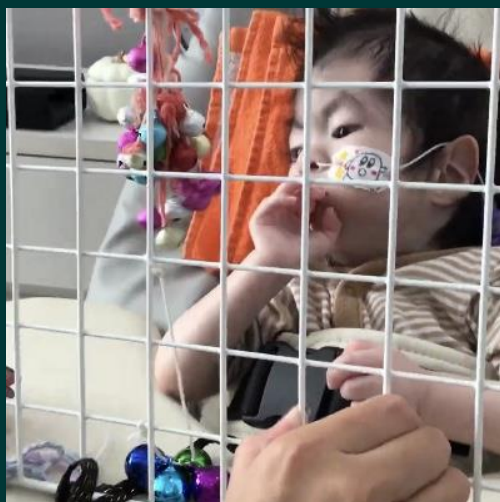
覚醒の低さ

寝ていることが多い上、起きていても学習活動で外界からの刺激に反応がないことが多く見られる



好みの前庭／固有覚

横揺れや縦揺れなど、直接的な刺激に対しては笑うなどの反応が見られる



視覚：不明

視野内に提示するより、視野外から登場させる方が捉える場合もある

聴覚：聞こえあり

笑ったり嫌がったりする音がある

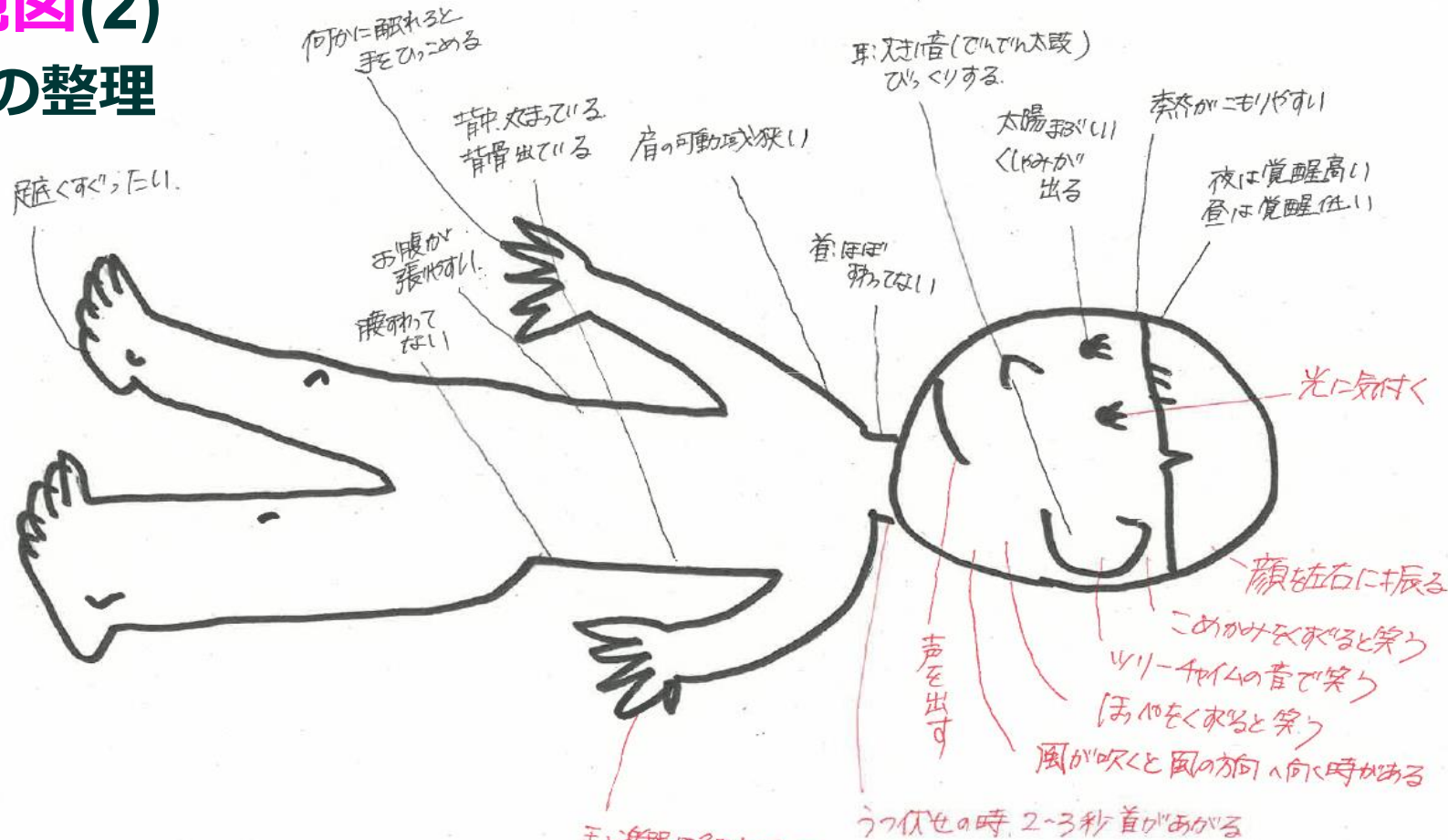


好みの触覚

手に楽器などが触れると引っ込めるが、チューブは手に触れても平気で、持つことができる

身体地図(2)

▶情報の整理



黒字 : 嫌い・苦手なこと

赤字 : 好き・得意なこと

1. 身体地図から分かる発達の高次化との関連

前庭覚／固有覚

触覚

聴覚

視覚

(1) 寝返り・揺れ

エアベッドでの揺れやひっくり返る動きに快の表情

(2) くすぐり

こめかみをくすぐると快の表情

(3) 指しゃぶり

触覚を使って確かめる → あとから見る

(1) 快の音

母の声

ツリーチャイム

(2) 不快の音

太鼓の音

見えてるのかなあ



見る

探索

さわる

周りからの刺激に反応する段階

▶特に触覚（くすぐり／揺れ／さわる）

刺激

期待

2. 対象児のストロングポイント

(1) さわる : チューブ ▶探索行動▶▶▶見る

(2) くすぐり : 頭皮マッサージ▶快の表出▶▶▶期待／要求

フィードバック





さわる

探索行動を誘引するため、チューブを短く切って対象児に持たせた
 ▶恣意的に手を動かしてもチューブに触れる時と触れない時があるため、**チューブを探す**動きが見られた

▷▷チューブに触感が近く違う玩具を持たせた



くすぐり

好きな刺激への**期待や要求を引き出す**ため、頭皮マッサージ器具で頭部（こめかみ）を刺激した

▶刺激を受けた所に手を伸ばし、**刺激への探索行動**が見られた

▷▷くすぐり刺激への反応のフィードバックをするため、声を出すと点灯する仕掛けをした



1.成果

(1)学習活動への意味付け

指導者が学習活動の「**何のために**」
「**なぜ**」を明確にすることができた

(2)児童の変容への見通し

指導者が**発達段階**を踏まえ、**期待感**を
もって指導・支援することができた

▶ **不安の解消**

手探し



改善前

さわる活動
(チューブ)

同じ

ストロング
ポイント



改善後

2.課題

(1)児童の変容を明らかにできなかった

対象児にとって学習の「**なぜ**」が判然としない ◀ ▶ 指導者起点

(2)刺激に対する反応の定着

覚醒状態の影響もあり、常に期待する反応が見られるわけではない